

Q1： 新学習指導要領が求めている学習評価とはどのようなものか教えてほしい。

A： 新学習指導要領総則においては、学習評価の充実について、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価することが示され、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくことの必要性が明示された。

学習指導要領の趣旨を実現するためにも、学習評価の在り方がきわめて重要であり、学習評価を真に意味のあるものとし、指導と評価の一体化を実現することがますます求められている。

以下に、学習評価に関する基本的な考え方や評価の際の留意点等について述べる。

## 1 指導と評価の一体化

「指導と評価の一体化」で大切なことは、評価の結果によって、その後の指導を改善し、更に新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることである。指導と評価の一体化を進めるためには、評価活動を評価のための評価に終わらせることなく、指導の改善に生かすことによって、指導の質を高めることが重要となる。

## 2 観点別学習状況の評価

観点別学習状況の評価については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。以下に評価方法（例）等を示すが、学校の実態に合わせて、多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられる。

### (1) 「知識・技能」の評価について

各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得について評価をするとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価する。

〈評価の工夫（例）〉

- ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。
- 実際に知識や技能を用いる場面を設ける。
  - ・児童生徒に文章により説明をさせる。
  - ・（各教科等の内容の特質に応じて、）観察・実験をさせたり、式やグラフで表現させたりする。

### (2) 「思考・判断・表現」の評価について

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

〈評価の工夫（例）〉

- 論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れる。
- ポートフォリオを活用する。

### (3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面」と、②「①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」という、二つの側面を評価することが求められる。

これら①②の姿は、実際の教科等の学びの中では、別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。実際の評価の場面においては、双方の側面を一体的に見取することも想定される。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取組続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的でない。

〈評価の工夫（例）〉

- ノートやレポート等における記述    ○授業中の発言    ○教師による行動観察
- 児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる。

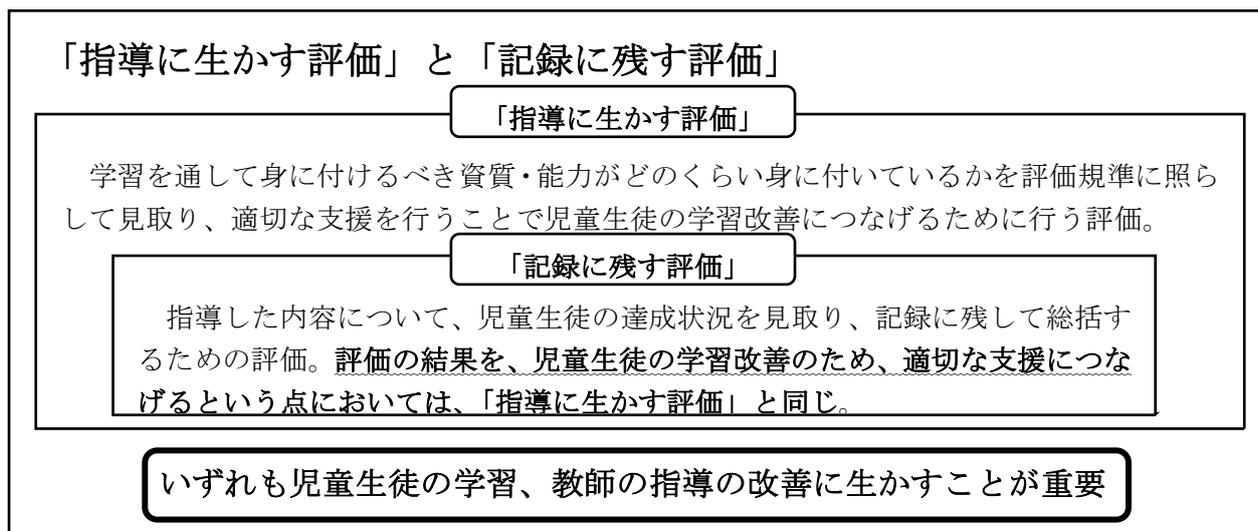
適正な評価を実施するためには、適切な評価規準の設定と併せて、評価規準に示される資質・能力を評価するのにふさわしい評価場面や評価方法を選択することが重要である。この評価場面や評価方法については、児童生徒の状況を無理なく的確に把握できるように工夫することが求められる。

### 3 評価の場面の精選について

学習評価は、指導や支援に生かすことに重点を置き、「記録に残す評価」の場면을精選するなど、評価場面や評価方法の工夫・改善を図る必要がある。「記録に残す評価」は、原則として単元や題材など、内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行う。

日々の授業の中では、児童生徒の学習状況を見取って、児童生徒の学習改善と教師の指導改善を図る「指導に生かす評価」に重点を置く。

単元（題材）のまとまりの中で適切に評価を実施するためには、単元（題材）の計画を立てる段階から、評価時期や場面、評価方法等を考えておくことが必要になる。



「指導と評価の計画」は、単元（題材）ごとの目標や内容、評価規準は適切かなどについて不断に見直し、必要があれば、その都度、改善を図る必要がある。学校全体として「指導と評価の計画」及びその実施状況の点検・確認を行うことが大切であり、学年や学級、教科等の枠を越えて、組織的に点検・確認を行い、必要がある場合は改善を図ることが重要である。

「妥当性」「信頼性」のある評価を実施する上でも、学校全体として組織的・計画的に取り組むことが求められる。

#### 【参考資料】

- ・「[新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料（中学校編）](#)」 R03.12 県教委
- ・「[新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料（小学校編）](#)」 R02.7 県教委
- ・「[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（小・中学校編）](#)」 R02.3 国研
- ・「[学習評価の在り方ハンドブック（小・中学校編）](#)」 R元6 国研